

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（6月定例会）
開催日時	令和4年6月24日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：高橋議長、河野副議長、伊尻委員、勝野委員、川原委員、黒羽委員、小松委員 坂内委員、菅野委員、攝賀委員、長谷川委員、松本委員、宮本委員 事務局：吉田社会教育課長、神保社会教育係長、齋藤主事（社会教育主事）、野田主事
議題	（1） 地域活動について （2） 令和4年度の提言テーマについて （3） 西東京市教育計画策定懇談会委員の推薦について
配付資料	
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録

会議内容

●議題について

議題（1） 各委員による地域活動について

各委員より説明

議題（2） 令和4年度の提言テーマについて

○事務局：参考資料を用いて説明。

◆前回の会議で、提言としての人づくりは「社会教育を担う人材の育成（推進する側の育成）」を共通認識とすることにした。

◆テーマの表現は、議論を進める中で適切な表現が定まるであろうということ、現時点では確定しない。

◆テーマが広いため絞り込みが必要であるというご意見が会議録の中でも多く見受けられたので、今回はテーマを絞り込み、決定をしたい。

テーマの絞り込みについては、皆様に事前に検討いただきたい点を2点お願いしている。

1. 自身が行っている地域活動にこだわらず、他の地域を含め、関心を持った地域活動の事例について
2. 「人づくり」「地域づくり」に関連して提言してみたいテーマについて

○議長：事務局から事前にいただいた課題について委員の皆様からご発言願いたい。

○委員：SDGs関連でテーマを絞り込むのはいかがだろうか。テーマとしては「持続可能な社会構築に向けた社会教育の推進について」を考えた。持続可能な社会が謳われるなか、社会教育が、その役割を担えると考える。地域活動の事例については、福井県ではSDGsで地域応援プロジェクトを実施しており、社会教育活動を行っている団体をSDGsのテーマに合わせてまとめ、紹介する取り組みをしている。西東京市ではゆめこらぼが地域の持続可能性を目指して、地域活動団体を集約しているので、ゆめこらぼの話も関心がある。

○委員：活性化は、経済的な活性化と社会的な活性化に大きく分けられるが、社会教育委員の会議では、社会的な活性化として捉える必要があり、そこに主眼を置いて、提言するのはいかがだ

ろうか。

先程、SDGsについての発言があったが、地域の活性化の目的は、地域の持続可能性だと考えており、地域課題を解決していくことが必要だが、いかに力を合わせていくかという点が重要である。NP0や企業と連携をし、その連携が機能性を持つためには、どのようなことが課題になるのかも含めて議論をしたいと考える。

○委員：「地域社会を担う人材の育成のあり方」というテーマを考えた。様々な活動の中心となる方が、変わらない、変わらないというところに課題があり、若者世代に参加していただき、地域社会を担う人材の育成をすることが、地域の活性化になるのではないかと思う。
また、シニア世代の方が地域で活動することについても考える必要がある。

○委員：SDGsという言葉は最近よく聞くと思うが、元々は「持続可能な、誰も取り残さない」という視点で、よく使われている言葉であり、地域づくりも含まれる。
ゆめこらぼが行っている具体例で言うと、誰も取り残さない持続可能な地域づくりで2年前に「まちづくり円卓会議」を実施した。これは公開の会議で、それぞれテーマを設けて、そのテーマに対して関連のある方々が集まり議論をした。テーマを一つ挙げると、LGBTQが挙げられる。セクシャルマイノリティは大人だけの問題ではなく、自我が目覚めた子供にも関連する。例えば、その子たちが施設を利用とするとときに、男か女かを選んだり、男女ごとに列に並んだり、そこからやりづらさ、生きづらさがあるのではないか。
子供たちに関わる専門家だけではなく、一般市民の方にもその現状をまず認識して、困ったときには専門家に繋ぎ、相談する先があることを学べる機会になった。
誰も取り残さない持続可能なまちをつくるというSDGsにも関連した視点は、普段の生活に実は紐づいているという気づきにも繋がってほしい。

○委員：「誰も取り残さない持続可能な地域づくり」というテーマが良いと感じた。
事例は杉並区の大人塾というのがある。大人の放課後というイメージで、自分を振り返り、社会との繋がりを見つける場のようなものである。一緒に活動できる仲間と出会い、自分は地域で何ができるか何をしたいかを考えるきっかけにもなるのではないか。

○委員：テーマについては地域を活性化させるためには、どのような仕掛けがあるのか、社会教育を支える人材を育成する、を見つけるためにはどのような方法があるのかについて関心がある。事例については、西東京市内には、不登校の子供たちの居場所を作っている「ぼくらーむ」がある。他自治体では、清瀬中学校の中にコミュニティーハウスがあり、ここでは地域人材の発掘をしているようだ。

○委員：事例については、青梅市では自治会の活動が非常に活発で、多くの自治会があり、そこには必ず子供会があり、この時期になると、全ての自治町内で夏祭りが開催される。
企画を自治会と子供会が共同で行い、子供がたくさん来ると、大人が集うというように、地域の活動が脈々と続いていると感じた。
また、東村山市の「地域の子供は地域で育てる」というキャッチフレーズも印象深い。特徴的なのは、全ての町内に運動会があり、町内対抗をする。当然子供たちも参加し、親やシニア世代の方々も、一つ場で参加しており、多世代が繋がりを持つ機会となっている。
持続可能というのはキーワードになるが、持続可能な地域というよりも、持続可能な活動を支える地域をつくるのが大事であると考えます。

○委員：関心を持った地域活動例は、札幌のよさこいソーラン祭りである。元々は複数の大学生の運営会が集まり、地域を繋げていく活動ということで大きなイベントになった。このようなイベントが人と地域が繋がりを持つことを考えると、西東京もそのような活動ができるのではないだろうか考える。

- 委員：関心を持った地域活動の例は地域の公園で、毎日朝6時半からラジオ体操が行われていることである。夏休みの前になると小学校の方にもチラシが入り、夏休みの間はスタンプがたまり、子供たちがクリアしやすいように実施している。また、大人も多く集まっている。先程も話にあったが、子供が参加するということは、必ず親も参加し、地域との関わりの最初のきっかけになると思う。
- 委員：伊丹市では、公民館の方に協力を得て、シニアボランティアを募り地域講師リストを作成しており、職業の経験や学習成果を生かして指導できる方を募集したところ、500人の方が集まったそうだ。テーマについては「地域の活性化・人材育成～シニアの力を借りよう～」を考えた。公民館はシニア世代の人材の宝庫だと思う。小学生や中学生の保護者だと家庭や仕事等で忙しい時期だと思うが、公民館で学習している方に話を持ちかけ、協力を得られるとよいと考える。
- 委員：不登校の児童生徒の居場所づくりについて関心がある。学校の活動の時間帯で校内に、そのような子が望む対応を取れば良いが、場所や担当者の課題がある。横浜市には、学校の中にフリースクールがあり、そういう子供の様子を見る仕組みを持っている。地域の方が校内のフリースクールのようなところに参画することができると横浜市の事例が参考になると考える。また、学校職員共通の課題であると思うが、住んでいる地域と職場の地域を考えたときに、両方の地域活動に寄与することの難しさを感じている。どちらも重要性は理解しているが、物理的に両方の地域活動に注力するには難しい状況がある。打開策を見つけるために、先駆的な事例を調べようとしたときに、うまく推進されている地域は、子供が少なく、小中学校統合等で地域がまとまっている、地方である場合が多いように感じる。しかしながら、地方の例が西東京市にも参考になるかと考えると難しい。極端ではあるが、海外事例にも視野を広げて勉強すると、何かヒントを得られるかもしれないと考える。
- 委員：持続可能とか誰も取り残さないという話の事例で、西東京市で活動している「みんなの畑」がある。一角の農地で障害のある方も地方の高齢者の方も子供も、みんなで協力しながら好きなものを植えて、収穫をしており、誰が来てもいいという場所である。
- 委員：テーマは「部活動の地域移行に向けた地域の担い手づくりについて」を考えた。渋谷区の例だと校長先生等を経験された方たちが、地域の部活動の仕組みづくりをしているようだ。部活動地域移行に向けた地域の担い手づくりについて、以前の定例会でも部活動の話は話題になったので、視察含めて考えられれば良いと考える。
- 議長：テーマは「地域活動に関心を持つ人材の育成とその方策～地域の活性化に向けて～」を考えた。前回の会議で「地域活動に関心を持つ人材、地域をサポートする人材」というような言葉が出てきたので、西東京市の地域活動に関心を持って、地域活動に関わる人材という意味を含んでいる。
- 委員：持続可能な地域活動は、いかに若者が中心となるかが重要であると思う。関心を持てる活動であれば、若者も地域活動にも参加するのではないかな。
- 委員：提言するうえで、地域の人材については「若い世代」とか「シニア世代」とか出てくると思うので、タイトルに細かく入れなくても良いと考える。
- 委員：「地域の活性化に向けた人材の育成（とその方策）～持続可能な地域づくりのために～」と

すると、あらゆる世代が含まれた提言になるのではないか。

○委員：タイトルに細かく盛り込んでしまうと、伝わりづらい印象がある。この中だとシンプルな「誰も取り残さない持続可能な地域づくり」がよいと考える。「誰も取り残さない」なのであらゆる人が含めた話ができる。なるべくシンプルなタイトルが良い。

○議長：「誰も取り残さない持続可能な地域づくり」、「地域の活性化に向けた人材の育成（とその方策）」の2つが案に挙がっているがいかがだろうか。

○委員：「誰も取り残さない」とは、具体的に誰をどういうふうに取り残さないのかが非常に難しいと思う。例えば不登校の児童生徒を取り残さないというのも非常に大事であるが、「誰も取り残さない」という言葉自体が非常に重たい言葉である。

○委員：「地域の活性化に向けた人材育成（とその方策）～持続可能な地域づくりのために～」は分かりやすい。「その方策」は、提言の中に述べれば良いのではないか。

○議長：「誰も取り残さない持続可能な地域づくり」
「地域の活性化に向けた人材育成（とその方策）～持続可能な地域づくりのために～」
の2つで採決をする。

一同、後者に挙手

○議長：それでは提言テーマは「地域の活性化に向けた人材育成（とその方策）～持続可能な地域づくりのために～」に決定する。

一同同意

議題（３） 西東京市教育計画策定懇談会委員の推薦について

○事務局：西東京市では、教育基本法第17条第2項に規定する地方公共団体における教育の振興のための政策に関する基本的な計画として、西東京市教育計画を策定している。
計画期間の終期が、令和5年度までとなっていることから、次期5年間の教育計画を西東京市教育計画策定懇談会により、今年度と来年度の2ヶ年をかけて検討する。
ついては、社会教育委員の会議を代表して1名、広く生涯学習に知見のある方を推薦いただきたいと事務局へ依頼が来ているので、社会教育委員の会議としてどなたを推薦すべきかご検討いただきたい。

○議長：どなたか推薦はあるか。

○委員：本日も活躍されていた川原委員にお願いできれば、一番適任ではないかと思う。

○議長：川原委員がよろしいのではないかという意見があったがよろしいか。

一同同意

○議長：社会教育委員の会議からは、西東京市教育計画策定懇談会委員として川原委員を推薦する。

その他

次回会議について

令和4年7月22日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎 3階会議室